

内容と共に、福音を運ぶ器としての私自身の品性が、それにふさわしいかどうかとも問われていると思うのです。

ある先生がこのような言葉を教えてくれました。

「賢い人に会った後、今日は賢い人に会ったという印象が残る。楽しい人に会った後、今日は楽しい人に会ったという印象が残る。しかし、砕かれた人に会った後、今日は神にお会いしたというような印象が残る。」

私たちが、砕かれる時、私たちは福音を運ぶのにふさわしい器となるのではないのでしょうか。なぜなら福音の内容自体が最もへりくだったものだからです。そして、「【主】は心の打ち砕かれた者の近くにおられ」とあるように、その人と神が近くいてくださるので、その人を通して神を近くに感じることがあるのだと思います。

現場に出る中で、砕かれる痛さを知り始めました。しかし、砕かれることが、福音を運ぶために、ふさわしい器になっていくことなのだと思います。何をやるにおいても、神と近くあることを、ただ一つの願いとしたいです。その時、福音宣教は進んでいくのだと思います。

在校生の証し



「戦友たち」と ともに学ぶ恵み

本科3年生 國安 洋子

北海道聖書学院に入学して2年半が過ぎようとしています。

献身に導かれた時、母教会が所属する教団神学校に入学するのか、当学院に入学するのか、二つの選択肢がありました。祈りのうちに、また母教会の牧師とご相談する中で与えられた信仰によって、当学院に入学致しました。

その年の教団神学校入学者はゼロでしたので、もしそちらへ進んでいたとしたら、私は独りで学ぶことになっていました。その恵みもすばらしいものだと思いますが、弱い私にはともに学ぶ友が必要であることを主はご存じで、この道へ導いてくださったのだと感謝しています。

「ああ、そういうふうにか考えるのか……。」学友たちの意見や感想に、目が開かれることがたくさんあります。それは授業中に限らず、食事時の交わりの時や作業の時だったりします。ともに過ごすすべての時に、主が私たちの真ん中にいてくださって、大切なことを教えてください。

また、ともに学ぼうとする謙遜な態度で、真心こめて準備をされた授業をしてくださる諸先生のお姿に、主のしもべとしてのあり様を教えてください。

残された半年も、主にある「戦友たち」ととも

に学ぶ恵みに、武者震いしながらお応えする者でありたいと願います。



「学院での学びの恵み」

本科3年生 工藤 元貴

毎日聖書から学ぶことができるという特別な3年間が与えられていることに感謝しています。今後の信仰の歩みと働きのために益となることばかりですが、特に、啓示されている神様のご計画の全体像を知ることができたことが、自分にとって非常に良かったと思います。

キリストにある自らの歩みがどこから始まり、今どこにいて、将来どこに向かっているのかということを知ること、またキリストにある世界に対する神様の贖いのご計画の全体と自分との関係を知ることで、今日の一歩、今の一足がより確かなものとなりました。自らの日々の小さな手のわざが、また多様な兄弟姉妹のそれぞれの手のわざ全てがキリストにあって見事に組み合わせられ、神様のご計画が進んでいきます。それゆえ毎日の繰り返しを、喜びをもって、着実に歩んで行くことができます。永遠へと繋がって行く主にある今日という日を歩めることが感謝です。聖書全体を体系的に学び、個に至るという方法は自分にとって非常に有益でした。

これからも壮大な主のご計画と主権の中にあって、今日自分にできることを精一杯行い、たとえ困難の中にあっても、一足一足、エノクのごとく、日々主と歩んで行けたらと願っています。



HBI 通信の証

短期信徒コース生

いんやく
印 鑰 杏理

HBIでは毎日が楽しく、全ての学びを通して神様を知ることが出来て感謝です。

HBIで学んだことは、学べば学ぶほど「聖書や神様のことを何も知らないのだな」という発見でした。自分の無知と霊的な貧しさを知り、今まで聖書を自分の読み方・この世の価値観で読んでいたことが分かりました。HBIは聖書に立って神様が本当に言われていることを学び、自分の考えや価値観を神様のものに修正していく場であると思います。

また、もう一つ大きな学びもありました。私は1学期に体調不良や自己の罪や弱さに直面し、健康管理も勉強もろくに出来なくなりました。しかし、毎日チャペルや授業を通して神様からの慰めがありました。「まさか、この授業で」と驚くような時もありました。先生たちが「神学校に来ると試練があるが、神様の良い訓練であること」や「器が整えられていく過程である」と励ましてくださいました。HBIの先生も生徒も祈って支えて下さ

いました。

辛い試練の中、自分の無知と弱さを知り、何よりも神様の偉大さを知りました。そして、十字架の愛に希望を置くことに導かれました。若輩者ですが、弱さから解放されて更に主を誇る者にされました。

心から神様に感謝いたします。先生、先輩や同期の方々、お祈りいただいた方々に心から感謝します。

HBIでは神様のことをもっと知ることが出来ます。神様を本当に理解し自分が変えられていきます。是非、HBIで学んでください！



HBIに通って 良かったこと

聴講生 才門 正男、孝子

昨年末、軽井沢から札幌に移ることになり、妻から、北海道聖書学院の聴講生として、一緒に通いたいとの申し出がありました。

振り返ると、45歳まで全く聖書とは無縁に、この世を謳歌して生きてきました。1999年7月、古本屋のワゴンの120円の「新約聖書入門」と書かれたタイトルから、人生の大転換の始まりでした。同時に、神様は、会社の倒産、息子の逮捕、少年院送致等、それまで考えてもいなかったいくつもの試練を与えて、おのれの愚かさ、弱さ、あらゆる傲慢さを完膚なきまでに打ち砕いてくださいました。

それから、20年の時が経ち、妻をはじめ、家族四世代が、救いにあずかる幸いを得ました。これこそ、神の恵みと今は、確信しています。

妻とは中学生の同級生、53年ぶりに二人でワクワクしながらの登校です。

人生の全てを主に委ね、その召しに応じた若い世代と一緒に学び、人生の全てを主に委ね、福音の御使いとして、牧者として日々労苦されている先生方の講義の時は何物にも変え難い貴重な時間です。

どうか、年齢、立場にとらわれず、一人でも多くの方がこの時を与えられますように

‘永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。’ ヨハネの福音書 17章3節

‘キリスト・イエスにあって大事なものは、割礼を受ける受けないではなく、愛によって働く信仰なのです。’ ガラテヤ人への手紙 5章6節

伝道実習報告



札幌国際キリスト教会チーム
本科3年生 三戸 恵悟

2021年7月2日(金)～7月8日(木)にかけて、札幌国際キリスト教会で伝道実習を行わせていただきました。学院から参加したメンバーは、李ヒョンジェ、印鑰杏理、三戸恵悟でした。

コロナ禍であり、やれることが限られた中でありましたが、池田先生、李先生、バイ先生が知恵を絞ってくださり、制限がある中で最大限のプログラムを考えてくださり、大変豊かな学びの時となりました。

主な奉仕としては、礼拝、祈禱会、中高科、CSでのメッセージ奉仕でした。その他にも、教会清掃や枝葉の処分、墓地清掃、トラクト配布をさせていただきました。一つ一つの奉仕を通して、多くのことを学ばせていただくことができました。

また、奉仕以外にも大変豊かな学びとなったのは、先生方との交わりの時間でした。お一人ずつ時間を取ってくださり、私たちの質問に丁寧に答えてくださり、ご自身の牧会経験を通して多くのことを分かち合ってくださいました。

また、教会の皆さんと交わる時間も与えられ、教会のお一人お一人が温かく迎えてくださり、大変励まされる伝道実習の時となりました。

主が、素晴らしい学び、励ましの時を与えてくださったことを、心から感謝しています。



第一次産業従事者への 伝道を探るチーム

本科3年生 石黒 大

今回の夏期伝道実習は、地方に住む人々、特に第一次産業に携わる方にどのようにしたら効果的に福音を伝えることができるか、伝道と教会形成について考えるため、実際に地方にお住まいの兄弟姉妹や先生方を訪ねてお話をお伺いしました。訪問先では、兄弟姉妹や先生方がそれぞれ置かれた場所で信仰を守り主に熱心にお仕えしている姿を拝見させていただき、お交わりを通してキリストのかぐわしい香りを放つお人柄に触れて大変感銘を受けて励まされました。地域に根差し、そこに住む人々を愛し、主に仕える使命の重みを教えられました。現地にて、西興部や湧別など酪農地帯の現状を五感で感じ取り、人々の暮らしを実際に見ることができました。遠軽ではクリスチャンによって開拓が始められた歴史を、願望岩の記念碑、北海道家庭学校、寺社仏閣より昔に建てられた教会堂、地域で力強い働きをしたクリスチャン先人の名が郷土資料館に残っていることから窺い知ることができました。感謝です。

「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」申命記 6:5

「主に信頼し 善を行え。地に住み 誠実を養え。」詩篇37:3

学生募集要項

■本科生

1. 入学資格
 - (1)新生の経験とともに主の働きへの召命が明確である者
 - (2)教会員として1年以上教会生活を経た、教会の推薦のある者
 - (3)本学院の規則と精神に喜んで従う者
 - (4)毎年、行われる入学試験（筆記・面接）に合格した者
 - (5)外国人の方は、日本語能力試験（JLPT）でN2以上の資格を必要とする
 - (6)外国人の方は、日本における所属教会を得ること
2. 入学願書に添付すべき書類

下記の書類を取り揃えて、本学院事務局に提出すること

第一期 2022年1月11日(火)まで
第二期 2022年2月15日(火)まで

 - (1)入学願書（本学院所定の用紙を使用すること）
 - (2)救いの証・召命の証（それぞれ1200～2000文字）
 - (3)受験者本人の人格、信仰、学習能力を保證する所属教会の推薦状
 - (4)戸籍抄本
 - (5)最終学校の成績証明書
 - (6)健康診断書
 - (7)受験料 10,000円

必要な用紙は本学院事務局へ、500円分の切手同封の上申し込むこと
3. 入学試験・合格発表

試験日：第一期 2022年1月24日(月)
第二期 2022年2月28日(月)
（なお試験日は、相談に応ずる）

試験科目：聖書知識・一般常識（英語・作文）・面接

試験場：北海道聖書学院
合格発表：試験、面接の後、当日中に発表する
4. 入学手続き：合格者は、入学式当日までに次の各手続きを完了しなければならない。
 - (1)入寮届けの提出(用紙は合格通知とともに渡す)
 - (2)入学金納入 40,000円
5. 入学後の諸費
 - (1)授業料（年間） 240,000円
 - (2)寮費（年間） 180,000円
 - (3)食費（年間） 144,000円

（時価により変動がある）

 - (4)海外研修積立費（年間） 84,000円
 - (5)傷害保険料（年間） 5,000円(2020年度)
（変わる可能性あり）
6. 本科生への経済的援助として奨学金制度、家族住宅手当の援助制度有り

■短期信徒コース生

「北海道聖書学院で、信徒も学べるコースがあったら！」という要望に応じて、「短期信徒コース」が設けられています。1年間で、聖書の基礎



を学び、それを自分の信仰生活に生かしていただくこと。それがこのコースの目指しているところです。

「でも1年では無理」という方も、一度登録すると、最長3年に分けて単位を修得することができます。3年以内で必修単位をすべて修得した方に、修了証書を授与します。

1. 登録資格

- (1)教会員であること
 - (2)所属教会の責任者の推薦があること
 - (3)学院の教師会の面接を受けること
- ☆年齢制限はありません。学歴も問いません。
所定の申込用紙に記入し、2022年2月15日(火)まで本学院事務局に提出してください。

2. 費用

- (1)登録費： 5,000円（入学時のみ）
- (2)学費（年間） 180,000円
分割払い（毎月15,000円 一学期で6万円）も可能です。特典として一年目の他の科目（特別講義も含む）を無料で聴講できます。

■遠隔地授業（聴講）

学院が所在する札幌より遠方に住む方が、インターネットで聴講（旧約通論、新約通論、キリスト教史、カテキズム）するための制度です。詳しくはホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。

□問い合わせ先：

北海道聖書学院
〒003-0831 札幌市白石区北郷一条3丁目1-61
TEL 011-871-7892 FAX 011-871-7899

□HP メールアドレス

HPアドレス <http://www.hbi-wmc.org>
Eメール hbi@olive.plala.or.jp

卒業生の主な赴任先

(2021年9月現在)

教団・教派		教団・教派	
日本福音	70	バプテスト関係	4
キリスト教会連合		その他	38
日本同盟基督教団	24	海外宣教・	4
日本福音自由教会	6	海外在住	
日本自由福音教会	2	超教派・教会協力	9
ブレザレン	2	召天者	7
メノナイト	3		